

# 今昔物語



岡山空襲後の烏城石垣



一中校舎



戦前の一中全景（昭和5年）



一高の体育大会



体育祭での入賞記念（昭和25年）



昭和天皇奉迎（昭和22年）



廃屋となった内山下校舎



吉備津教場記念碑（平成17年5月建立）

## 終戦後の校舎

昭26卒 山下晴三郎

岡山空襲後、校舎が再建されるまで、一中の一・二年生は、晴天の日は烏城の中庭へ登る石の階段、または焼けて大屋根が崩れ落ちた岡山市公会堂（現在の県庁付近）の小会議室や控室、屋根が落ちた大会議室の両袖の廊下。吉備線沿線と庭瀬在住者は吉備津神社の回廊。倉敷周辺以西の生徒は倉紡の青年学校を借用して勉強し、三・四年生は伊島小学校を借用していた。

烏城内の焼跡では焼けた瓦等を取り除いた後を耕して、大豆などの暑さに強い野菜を植え、食料不足に備えたが、水をやるのが大変で、下の旭川まで汲みに降りて上の畑まであがつてくるとバケツの中の水はこぼれて少なくなっていることが多かった。

英語の平岡先生は、石川啄木の詩を英訳させて生徒を困らせて喜んでいたが、数人でお城の石垣に座って後楽園を眺めながら一生懸命英訳をしていたことを思い出す。

さて、校舎は昭和二十一年中頃から再建されはじめたが、バラックのお粗末な平屋建てであった。昭和二十二年、昭和天皇が行幸され、教室の

中まで入って授業を参観された。

教室の写真は、二十五年秋の体育祭で入賞した時の記念写真で賞状や果物籠を持っていて、窓にたるきが打ちつけてあるが、学校内の全ての窓に打ちつけてあって、これは窓ガラスや教室内の備品が盗まれるのを防ぐためのものであった。

今思い出すと決して条件の良い教室はなかったが、生徒達は勉強には意欲を燃やして、絶対に他校には負けたくないという、明るい希望に充ちた雰囲気の中で頑張ったと思う。

朝日高校設立時は、男子は岡山一高跡（内山下校舎）、女子は岡山二女高跡（中山下校舎）に別れて勉強をしていた。昭和二十五年八月から第六高等学校跡で男女共学が実現した。二十六年三月には家庭科教室が新設された。二十七年一学期末と二十八年一学期末にそれぞれ二階建普通科教室が一棟ずつ建設された。生徒の居なくなった中山下校舎は岡山市に譲られて旭中学校となり岡山市に移管された。